

経営健全化方針に基づく取り組み状況（令和4年度）

○法人名

飛騨小坂観光株式会社

○経営健全化方針を策定した理由

第三セクター等の経営健全化等に関する指針の債務超過法人に該当したため

○財政的リスクの状況

	平成29年度 決算	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算
債務超過額 (千円)	2,889	8,701	12,485	16,213	18,261		

○経営に関する外的要因

- ・平成30年度の災害から始まり新型コロナウイルス感染症の影響により大きく入場者が減少しそのため売り上げが落ち込んでおり、役員報酬の削減や職員の削減を行っているが、回復の見通しが厳しい状況である。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で高速道路サービスエリアのレトルトカレーの売上が大幅に減少、すべての顧客を失い現在は鮎泉粥のみを製造している。
- ・巖立峡ひめしゃがの湯の休館（令和4年12月）に伴い、小坂を訪れる観光客の減少につながっており、道の駅の入場者も減少傾向となっている。

○主な取り組み状況（令和5年3月現在）

- ・前年度より売上原価と仕入れの見直しに努めたが、物価高騰の影響で大きな成果を得ることができなかった。道の駅はなももの特産品である五平餅について、販売増加を図るため、郡上市、高山市の農家と直接交渉を行い原材料の「えごま」を安価で多く確保した。また、鮎泉粥については、パッケージ等の副材が高騰するなど物価高騰の影響を受けた。
- ・鮎泉粥の販売拡大、販路拡大のためインターネット販売や関東地方での販売を検討したが、インターネット販売は単独では手掛けることができず、地元企業が手掛けるインターネット販売に出店可能か協議をしたが、地元企業の撤退に伴い実現できなかった。また、関東地方での販売は、今年度実行できなかった為、令和5年度に向け飛騨小坂観光協会と連携して宣伝等の取り組みを行う。
- ・NPO法人飛騨小坂200滝が行う小坂の滝めぐり事業に関連し、滝めぐりの中心地となるがんだて公園の集客が令和2年度25,900人から令和3年度36,700人と前年度比40%程度増となっている。この波及効果もあり、土産物の売り上げが14%程度、食堂部分の売り上げが18%程度の増につながった。今後も、情報共有を密に行うことで、利用者の増加を図る。
- ・施設内に市民の自慢の作品を展示するスペース設け、地域の方の陶芸作品や絵画作品（4月～2月の間定期的に入れ替え）、小坂こども園の作品展示（3月）を行ったことで、観光客だけでなく地域の方が施設を利用するきっかけづくりの取り組みとなった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策による観光客の減少に伴い営業時間の短縮（閉館を17時から16時とした）や冬季間12月から3月は週1日（毎週木曜日）の休館を行うことで光熱水費、人件費等削減を図った。

○財務状況

・貸借対照表

	平成 29 年度 決算	平成 30 年度 決算	令和元年度 決算	令和 2 年度 決算	令和 3 年度 決算	令和 4 年度 決算	令和 5 年度 決算
資産総額	15,172	18,207	12,862	10,828	10,587		
（うち現預金）	4,911	4,598	1,639	4,615	4,719		
（うち売上債権）	2,500	3,829	2,639	122	205		
（うち棚卸資産）	6,672	6,169	5,656	4,042	3,700		
負債総額	18,061	26,908	25,347	27,041	28,848		
（うち市からの借入金）	0	0	0	0	0		
純資産総額	△2,889	△8,701	△12,485	△16,213	△18,261		

・損益計算書

	平成 29 年度 決算	平成 30 年度 決算	令和元年度 決算	令和 2 年度 決算	令和 3 年度 決算	令和 4 年度 決算	令和 5 年度 決算
経常収益	78,792	77,032	75,409	43,039	36,781		
経常費用	79,170	82,658	79,007	46,582	38,644		
経常損益	△378	△5,626	△3,598	△3,543	△1,863		
経常外損益	3,003	2,817	4,517	10,734	7,828		
当期純損益	△543	△5,811	△3,783	△3,728	△2,048		